

行政視察報告書

所属委員会 または会派名	国道バイパス特別 委員会	参加者 氏 名	委員長 横山真 副委員長 井上登 岩波万佐巳 伊藤浩平 小山博子 藤森靖明 小泉正幸		
行政視察名称	国道20号諏訪バイパス建設促進期成同盟会先進地視察研修				
視察期間	令和 7年 11月4日(火)				
視察都市名	長野県伊那市(国道153号伊那バイパスアクセス部及びバイパス工事現場)				
1.視察した目的					
諏訪市議会国道20号バイパス特別委員会は、上諏訪・角間沢バイパス連絡協議会の皆様とともに、国道153号伊那バイパスのアクセス道路及び本線工事現場を視察しました。本視察を通じて、立体交差部の施工方法や地域住民との連携の重要性について、多くの知見を得ることが目的です。					
2.視察地の概要（国道153号伊那バイパス）（※令和7年11月1日現在。下段は諏訪市）					
住民基本 台帳人口	64,561人 46,631人	住民基本 台帳世帯数	28,937世帯 21,504世帯	面積	667,93km ² 109,91km ²
伊那バイパスは、伊那市と箕輪町を結ぶ全長 7.63 kmの国道153号バイパス道路です。 現道の渋滞緩和と交通安全の向上が主な目的とされ、1997年に事業着手され総事業費327億円をかけて整備が進められています。現在は、一部区間が供用されており、将来的には4車線化を目指しております。 また、伊那バイパスはリニア中央新幹線へのアクセス道路の一環としても位置づけられています。					
3.視察内容					
(1) 立体交差部の採用経緯と施工 今回の視察の中心となった福島南部交差点の立体交差は、当初底面交差点が検討されていました。しかし、交通量の多さから安全性を確保することが難しく、直線区間の確保など要件を満たせないため立体交差が採用されておりました。					
(2) 550トンクレーン+ベント架設工法による仮設 県道伊那辰野線を横断する跨道橋の上部工仮設では、通行止め期間を最小期限にするため「550トンクレーン+ベント架設工法」が用いられておりました。この工法により、昼間片側交互通行が4日間、夜間通行止めが3日間で済み、地元ケーブルテレビでも紹介されるほどでした。この最新工法は既存道路への交通負荷を最小限に抑えながら、大規模構造物を迅速に架設できる点で非常に参考になりました。					
(3) 橋梁の特徴と維持管理 本橋梁には鋼鉄床版パネルが採用されており、型枠制作工程が不要になるため上部工架設後の橋面工がスムーズに進められています。また、高架橋はコンクリート舗装ではなく、特殊金属塗装された金属のみで構成されているため、経年劣化によるコンクリート片の落下を防ぐことができ、メンテナンス費用の削減にも繋がる工夫が施されていました。					
(4) 盛り土部と地域差 視察した盛り土高架現場は、平地で広々とした土地が確保されており、諏訪バイパスが抱える地形的な制約とは大きく異なることが印象的でした。このような地域差がある中で、諏訪バイパスの設計においては、土地利用を最小限に抑えるための垂直擁壁などの工夫が重要になると感じられました。					
(5) 地域住民との連携の重要性 伊那バイパスの建設にあたっては、地域分断や費用対効果に関する地元の懸念があったようですが、粘り強く丁寧な説明が行われた結果、住民の理解を得て完工に至ったとのことでした。これは諏訪バイパスの建設においても非常に重要な教訓となります。特に、日照権や通学路、高齢者の歩行空間など、地域住民の生活に配慮した説明と協議が不可欠であると再認識しました。					

4.委員会としての所感及び諏訪市に反映できると思われる点

○委員会の所感

バイパス建設に際し、これまで粘り強く丁寧な説明がなされてきたことは住民の皆様との信頼関係を築く上で非常に重要だと感じました。今後も、さらに分かりやすく具体的な情報共有を続けることで住民の方々の不安を払拭し、ご理解を深めていくことが何よりも大切だと思いました。

○委員からの意見

- ・住民への丁寧な説明：地域分断や費用対効果への懸念に対し、粘り強い説明で不安を払拭する重要性
- ・立体交差の理解促進：イメージしやすい説明と、周辺住民への配慮の必要性
- ・災害時交通網としての役割：20号バイパスが持つ災害時における重要性
- ・工法への評価：既存道路への影響を抑え、耐久性やメンテナンスを考慮した工法への注目
- ・総合的な評価の重要性：工期短縮や在来線への影響だけでなく、費用以外の観点での評価
- ・平坦地との比較：諏訪市の地形とは異なるが、道路整備や安全対策の工夫が参考になる点
- ・歩行者への配慮：通学路や高齢者の歩行空間など、車以外の利用者の安全確保

○今後の展望

バイパス建設は、住民の皆様の協力なしには進められません。視察から得られた先進地事例を参考に、市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりと、災害に強い道路インフラの整備を進めていくことが重要です。

